

新ど研 銭湯で学ぶカルチャースクール「ふろカル」 年末年忘れ企画 「笑う門には福来る！年忘れ 福の湯寄席」 開催



株式会社北海道博報堂（札幌市中央区）の研究組織「新どさんご研究所（以下、新ど研）」では銭湯から北海道の文化を発信するプロジェクト「ふろカル」の第5弾を開催いたします。第5弾は札幌落語倶楽部副代表・伊達家 粹鏡（だてや すいきょう）さんをお招きする「笑う門には福来る！年忘れ 福の湯寄席」です。高校教諭の肩書も持つ粹鏡さんは北海道を代表する素人落語名人です。

今回のふろカルでは落語の歴史から今の落語、さらに小噺を実際に体験してもらいながら、落語の世界を学んでいきます。そして最後は年の瀬にふさわしい、あの「芝浜」で大いに楽しんでいただきます。

講義後はもちろん福の湯の一番風呂で一年間の疲れを癒してください。

日時	2019年12月7日(土)12:30~15:00（開場12:00）
会場	福の湯 札幌市北区新琴似7条6丁目6-1
講師	伊達家 粹鏡(だてや すいきょう)
参加費	1,010円(入浴料込)
定員	30名程度

◎ふろカルの詳細、お申込みは特設サイトをご覧ください。

特設サイト：<http://www.fulocal.net>

◎ふろカルの最新情報は、ふろカル公式SNSをご覧ください。



@fulocal



@fulocal



@fulocal_net

開催当日、取材対応させていただきます。

お問い合わせ、ご質問などは下記お問い合わせ先までお願い致します。

■講師紹介



都筑守 / 伊達家 粹鏡 (だてや すいきょう)

1954年生まれ。神奈川県出身。「札幌落語倶楽部」メンバー。伊達家粹鏡として高座に座り、古典、新作含めて持ちネタは30以上。道立高校の校長を務め、定年後には私立高校で教壇に立ち続ける。北海道大学落研創設メンバーの1人。お風呂は、ぬるめに入って段々と熱くするのが好き。追い炊きできるお風呂が一番いいが、熱いお湯を追加するのも有り。

■会場紹介



福の湯

1971年創業。札幌市北区の住宅街に位置し、古くから地元住民に親しまれている。現在の屋号である「福の湯」には、「入浴されたお客様が幸福な気持ちになれますように」との願いが込められている。石油式でお湯を沸かす銭湯が主流とされる中、材木を利用し沸かしており、利用客からは「お湯が軟らかい」と評判である。

ふるカルとは？



株式会社北海道博報堂の研究組織「新どさんご研究所」が企画・主催するカルチャースクールイベントです。

人々のコミュニケーションに役立っていたまちの銭湯は、札幌市内でもここ20年で143軒から39軒にまで激減しています(※)。孤立化やつながりが希薄化する中で、改めて銭湯の魅力を発信し地域活性化に貢献していきたい。新ど研は、そのような思いで銭湯を文化の発信基地とするプロジェクトを始動いたしました。「ふるカル」では、北海道内で活躍する人を特別講師に迎え、銭湯のロビーや脱衣所を教室にしたカルチャースクールを開校いたします。

※ 厚生労働省「衛生行政報告例」等より

～過去のふるカルの様子～



【新どさんご研究所 概要】

北海道民の今の姿をデータで明らかにしながら、「一歩先の北海道民＝新どさんご」と定義して、その変化を予測・提言する(株)北海道博報堂が設立した研究組織。



新どさんご研究所 所長
山岸 浩之

やまぎし ひろゆき

2014年北海道博報堂入社。コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。博報堂生活総合研究所 客員研究員。